

中国では今なおゼロコロナ政策が継続しており、特に上海ではロックダウンの後、無料のPCR検査場がいたる所に設置され、少なくとも3日に1回はPCR検査を受けなければならない。PCR検査といっても口の中を綿棒で数回こするだけの簡単な検査である。PCR検査を受けたかどうか、またその結果がどうであったかはスマホのアプリによって管理されている。その結果は健康コードと呼ばれるQRコードで緑・黄・赤として反映され、地下鉄などの公共交通機関を利用する場合や、ビルやお店に入ったりする場合には、そのQRコードが緑であることを係員に示す必要がある。

先日の月曜日の午前8時過ぎ、地下鉄の駅の改札口で係員に健康コードを見せたところ、係員が突然慌てだした。よく見ると私のスマホの健康コードが黄色になっているではないか。係員から「壁の方に離れろ、そして動くな」と言われ、改札から離れた端っこの方にポツンと立たされたのだが、気の毒なのは他の通勤客である。私のためにその改札口は突然封鎖され、係員から他の改札口を利用するよう言われている。当然のことながら、通勤客はなぜだと係員に詰め寄るが、係員が私の方をちらちら見るので、通勤客はあいつのせいかと私を睨んでいる。ラッシュアワーに大変申し訳ない気持ちでいっぱいであった。

5分ほど待っていると、防護服を来た係員がやってきて、臨時隔離所という地下鉄の駅構内の一角に設けられた場所に私を連れて行き、そこで私に防護服を着るように言う。奇しくもその日は10月31日のハロウィンであったが、まさ

か自分が防護服を着ることになるとは夢にも思わなかった。

防護服を着た後、抗原検査を実施し、その結果が陰性だと判明したため、晴れてすぐに解放となったのだが、係員から最寄りのPCR検査に行くよう指示され、その結果が出るまでは自宅で待機するよう言われた。PCR検査の結果が出ればその日のうちに健康コードが緑になるかと思っただけ、3日間連続でPCR検査を受け、その結果がすべて陰性であってはじめて緑になるとのことで、結局3日間も自宅待機を余儀なくされた。

なぜ黄色になったのか、それは土曜日に昆山という近郊にゴルフに出かけたのだが、上海に戻った場合には3日連続でPCR検査を受ける必要があるところ、翌日の日曜日にその検査を受けなかったことが原因のようであった。自業自得であるが、天網恢恢疎にして漏らさず、デジタル管理により誰がいつPCR検査を受けたのかはすべて記録されており、受けなかった場合には健康コードが黄色になり、社会的な活動が不自由になるという制裁がある。できる限り毎日PCR検査を受けようと固く決意している今日この頃である。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ☒メールアドレス：info_china@ohebashi.com

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのものに依拠されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。